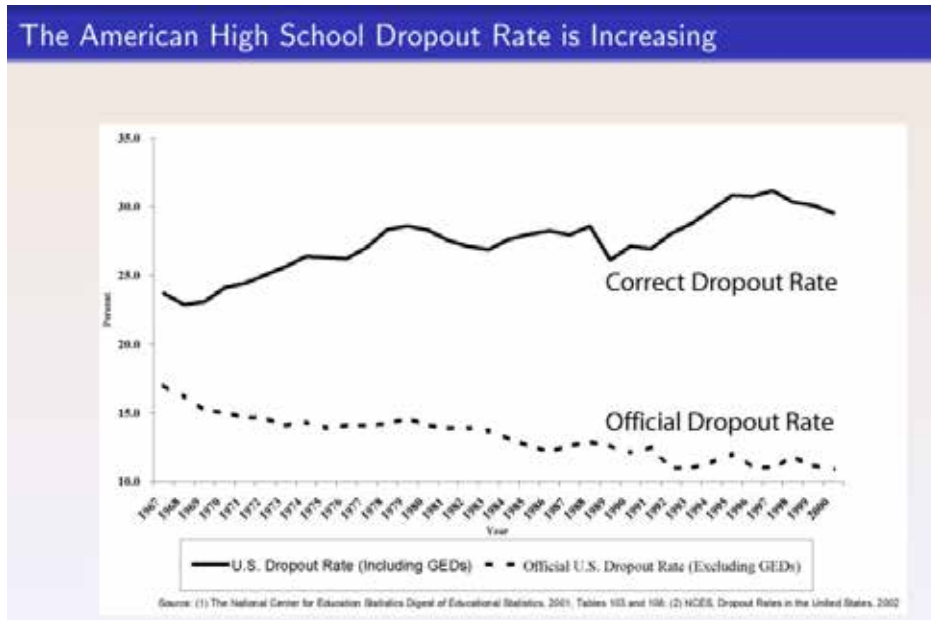


10代の黒人の母親たち

母子と言う二者にとって、第三者の存在の重要性を考えさせられる実例があります。アメリカでは高校中退率の増加が問題となっています。日本でも高校中退が増加しつつあるのですが、アメリカとは中退の中味が異なります。



(アメリカの高校中退者率。上部は自主退学率。下部は学校から退学させられた率)

日本の中退理由は生活や学力問題ですが、アメリカは10代の妊娠です。妊娠した10代の少女たちは、出産前後の知識や助言、物的な援助や励ましを受けるチャンスが少ないままに、出産していることです。しかも、低体重児出産（10カ月の胎在でありながら2000グラム以下の新生児を意味します。）が多く、学業を続ける少女は少なく、次の男性と家庭を築きますが低所得層です。

10代の母親たちは学業を放棄することで、さらに困難な生活を強いられています。10代で妊娠し、高校を中退し、すぐさま新しい男性に依存するような生き方を選びます。そのような結果になるのは、彼女自身の性格やパーソナリティが問題だと考える人もいます。

一般の高校生に比べて、だから、また、アメリカ社会における黒人と言う立場だから、多くの黒人が歩む同様な人生を経ると考える人もいます。

ほんとうにそうでしょうか？

今回は、彼女の人生に対する異なった見方を紹介しま